

## いじめと 向き合う

(1)

先生たちは、校長が描いた物語をどんどん広げてくれます。先生の教育活動への積極的な参画は、生徒にすこし伝わり、主体的な学校生活の課題解決を促します。

その一つが「居場所」

廊下側の教室の窓に

心地の良い学校・学級をつくる」といじめを起こさない環境づくりに踏み出しました。

その成長を実感した出来事がありました。

他の豊かな交流を通して、自己肯定感や自己有用感を高め、「自分のことを好きになること」「つながっていることに気付くこと」「居場所は自分でつくること」、この三つを身に付ける指導で、「私は主体的にここにいます」と自信を持って宣言する生徒が集う学校の実現を目指して、那覇市立寄宮中学校校長の玉座の復元でした。生

集団生活のトラブルを「ぶにぶに」と捉え、毎月行われる学校生徒アンケートの結果を基に、生徒会長が全校生徒に「本校のいじめの実態」を投げ掛け、「自分たちの力で、居心地の良い学校・学級をつくる」といじめを起こさない環境づくりに踏み出しました。

その後、焼け殻を拾い集めて校長室に届け作成には、小学生のアイデアも加えました。

こうして生徒たちの感性は育まれていて、これが王様の椅子かも知れません。しかし、これが王様の椅子かも知れません。

その後、焼け殻を拾い集めて校長室に届け作成には、小学生のアイデアも加えました。これが王様の椅子かも知れません。

その後、焼け殻を拾い集めて校長室に届け作成には、小学生のアイデアも加えました。これが王様の椅子かも知れません。

その後、焼け殻を拾い集めて校長室に届け作成には、小学生のアイデアも加えました。これが王様の椅子かも知れません。

その後、焼け殻を拾い集めて校長室に届け作成には、小学生のアイデアも加えました。これが王様の椅子かも知れません。

## 生徒の主体的な課題解決を促す

校長が描いた物語を教員が積極的に展開



前田 比呂也

那覇市立寄宮中学校校長

(下)

は自分でつくる」活動は「ぱっぴい ういんの中心になり活躍する生徒会の活動です。生徒会は、生徒主体のいいの活動を称賛し認め合うメッセージが日々張られます。

「ふにふにくした」とネーミングしまった。いじめに限らず、連携も大切にしていま

昨年10月、首里城が焼失しました。2月には離れた本校でも、校内でのたき火をしたかと思うほど焦げた臭いと煙が立ち込め、真っ黒な焼け殻が散乱していました。

その日、全校朝会で首里城火災と私の父の話をしました。父は漆工芸の作家で、代表的な仕事が首里城正殿の玉座の復元でした。生